

「和歌山県立高等学校再編整備 第2期（後期）実施プログラム」（案）に係る県民意見募集の概要

I 県民意見募集の概要

<p>1 意見の募集期間 平成25年9月2日（月）から平成25年9月30日（月）</p> <p>2 提出された意見の件数 12通（電子メール4、FAX6、郵送2）</p>

II 提出された意見の概要とこれに対する県教育委員会の考え方

（1）実施プログラム（案）全般について

意見の概要	県教育委員会の考え方
<ul style="list-style-type: none">・ プログラム案は素晴らしいと思う。実現に向けて取り組んでいただきたい。・ 再編を検討するとき、地域社会の文化、伝統、環境にも十分配慮していただきたい。・ 伊都地方の生徒数減少による県立高等学校の再編の必要性は認めざるを得ないが、その必要性だけをもって歴史と伝統のある伊都高等学校の「廃校」には反対である。・ 廃校ではなく、課程や学科の改編として再編を検討していただきたい。	<ul style="list-style-type: none">・ 伊都地方における生徒の減少に対応するとともに、当地方の教育の充実と活性化を図るには、全日制高校を1校減らさざるを得ない状況であり、再編を行うこととしました。・ 今回の再編整備では、従来の全日制・定時制・通信制高校の概念にとらわれない、全く新しいタイプの学校を開校するとともに、スポーツや文化活動な

<ul style="list-style-type: none"> ・ 現伊都高校普通科の4学級を2学級とし、進学クラスを1学級、スポーツクラスを1学級設置し、通信制課程を併設すればよいと考える。 ・ 歴史と伝統をもつ伊都高校を閉じて新しい学校をつくるのだから、それにふさわしい専門教員や準備委員会のスタッフ配置案を示してほしい。 ・ 中学生や保護者が「夢が実現できる新しいタイプの高校だ」と思える高校像が示されているとは言い難い。 	<p>ど、学校を「地域の活動・学びの場」とすることで、多様な人との出会いを生み、互いに、「鍛え合い」、「支え合い」、「学び合う」豊かな教育の場を創り出すことを大きな柱としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これからの時代をリードする「新しいタイプの学校」を和歌山県から発信し、新たなスタートを切るという意味において、「両校の生徒募集を停止し、新しいタイプの学校を開校する」として、再編実施プログラムを発表いたしました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 紀の川高校と伊都高校のよき伝統を活かすべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい学校における教育活動の具体的な内容等については、紀の川高校のきめ細やかな指導と伊都高校の野球や進学など、両校の伝統や培ってきたノウハウを引き継ぐ方向で、両校と十分協議を行って決定してまいります。

(2) 「新しい学校」について

意見の概要	県教育委員会の考え方
<ul style="list-style-type: none"> ・ 和歌山市内に「体育科」があるように、紀北地区にも「体育科」があればよいと思う。紀北地区は、奈良県や大阪府とも地理的に近く、クラブ活動の 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい学校では、特色ある多彩な講座から、生徒一人一人の進路実現や興味・関心に合わせて、「学

試合などにも便利です。県立体育館や運動公園の有効利用や地域の活性化にもつながると思います。

- ・ 日本全国から注目される新しい活気のある学科を設置していただきたい。例えば、国際科の中で英語力を養うため、学校生活すべてを英会話で行う学校も必要ではないか。
- ・ 生徒たちが将来役に立ちそうな技術や知識を身に付けられるような、カリキュラムを実施していただきたい。例えば、高野口は織物の町なので、織物の技術の授業や染色等の授業があれば、卒業生たちはその知識を生かして就職にも役立てることができる。地元にも人材が残れば地場産業の発展にもつながる。また、和歌山は観光資源がたくさんあるので（世界遺産高野山・熊野古道など）、それを紹介できるような学科を作り、卒業生がガイドとして活躍できるようなカリキュラムを実施すればよいと思う。
- ・ 生徒たちの将来の仕事に役立ちそうなカリキュラムを作成し、人材を育てることに力を入れていただきたい。
- ・ 「午後の時間」の充実を図ることが重要である。

- ・ 「新しいタイプの学校」は、これまでの全日制や定時制、通信制高校の概念を超える学校であるとの印象を受ける。それだけに、実際に進路指導を行う中学校の教員及び中学生やその保護者が、新しい学校像をきちんと理解した上で進路決定をし、生徒一人一人が希望をもって入学できるよう取り組んでいただきたい。
- ・ 入学する生徒一人一人が「単位制高校」の仕組みを十分理解し、その利点を最大限活用して「学びたいことを学んで夢が実現できる」よう、単位制高

びたい」ことを柔軟に選択して学べるシステムを導入します。こういった講座を実施するかなど、具体的な教育課程については、今後、地域の産業や文化、生徒のニーズ等を十分調査するとともに、両校と十分協議を行って決定してまいります。

- ・ 生徒一人一人が新しい学校を十分理解し、夢と希望をもって学校を選択できるよう、中学生やその保護者、学校関係者等に丁寧に説明してまいります。

校について十分な周知を図っていただきたい。

- ・ 不登校や中退など、様々な困難を抱えた子どもたちにも、学びの場となることを期待する。
- ・ 様々な理由で学校へ行けなかった子どもが、高校を卒業しようと高校の門をくぐるのはとても勇気のいることである。グループが苦手な子どももいる。少人数の高校を選びたい人もいる。伊都高校の校地に開校とのことだが、通いやすいよう配慮をお願いしたい。

- ・ 野球部をはじめ多くの部活動が行われ、活気ある高校となるためにも、特に、伊都高校の在校生と新しい学校の生徒がいっしょになる過渡期において、合同チームで大会に出場でき、かつ再編校においてもその伝統が継続していくシステムと条件整備をお願いしたい。

- ・ 入学してくる生徒一人一人に、「この学校で学んでよかった」と思ってもらえるよう、様々な配慮や工夫を考えてまいります。

- ・ 高校野球について、日本高等学校野球連盟に確認したところ、伊都高校と新しい学校が併置される2年間は、合同チームとして出場することも、それぞれの学校が単独で2チーム出場することもできるとの回答を得ています。出場の仕方については、今後、伊都高校と新しい学校で協議の上、決定していくこととしています。

- ・ 高校野球以外の運動部活動について、全国高等学校体育連盟は、複数の学校などによる合同チームの出場は認めていないとのこと。なお、県内の大会に限って、県高等学校体育連盟は、同一課程による合同チームの出場を認めています。県教育委員会としましては、より柔軟な出場の仕方を認めていただけるよう、現在、県高等学校体育連盟に働きかけ

	<p>ているところであり、回答を得次第、お知らせしてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 新しい学校の名称に「伊都」を残して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい学校の校名については、一般から募集することも含めて、関係者等から広く意見を聞きながら検討してまいります。

(3) 学校を「地域の活動や学びの場とする」ことについて

意見の概要	県教育委員会の考え方
<ul style="list-style-type: none"> 現在、紀の川高校の社会人講座で中国語を勉強している。こういう機会を与えていただくことで、年を重ねても勉強することができ、学ぶことの楽しさを感じている。紀の川高校がなくなることはさみしいが、もう一度学ぼうとする人たちにチャンスを与えてくれる場所として必要不可欠だと思う。新しい学校が、年齢を問わず、学び、集える場所であって欲しいと願う。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回の再編の大きな柱の一つに、「学校を地域の活動・学びの場」とすることを掲げています。新しい学校が、幅広い年齢層の方が集い、互いに「学び合う場」となるよう取り組んでまいります。
<ul style="list-style-type: none"> 「地域の住民に開放する講座を開き、生涯学習やスポーツの拠点とする」とあるが、公民館活動との違いをもう少し具体的にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 公民館活動で培われた優れた取り組みを、新しい学校で講座を開くことにより、高校生だけでなく、より多くの方が学べるようにしていきたいと考えております。

(4) 学校を「社会とつながる場とする」ことについて

意見の概要	県教育委員会の考え方
<ul style="list-style-type: none">・ 就職で一番有利なのは資格や技術力である。新設される高校では、社会で通用する人材育成をお願いしたい。	<ul style="list-style-type: none">・ 今回の再編の大きな柱の一つに、「学校を社会とつながる場」とすることを掲げています。勤労体験の支援やキャリアガイダンスの充実、就労に向けた様々な悩みや相談に丁寧に対応する体制の構築など、若者の社会的自立をきめ細かく支援する体制を整えてまいります。